

2016

8

No.554

広報

みなみいず

特集

ゆつくり流れる時間

ひととき

みなみいず暮らし



「移住」

それは新たな土地で、新たな生活を始めること。

新たな暮らしへの「チャレンジ」です。

今回、南伊豆町に移住を決断した人たちの思い

移住希望者を支援する人たちの思い

さまざまな「移住」への思いを聞きました。



移住者の声

新たな生活の地として、なぜこの地を選んだのか、移住者を魅了するものは何か。移住者のさまざまな思いを聞きました。

大自然の中で、子どもたちとともに

小柳 信幸さん (39歳)
明美さん (38歳)
幸太郎さん (10歳)
虹郎くん (5歳)
心郎くん (0歳)

Profile

平成 25 年 4 月に埼玉県さいたま市から青市に移住。海、山、川など豊かな自然に囲まれて子育て奮闘中。

「自然に恵まれた環境の中で、子どもを育てたい」という夢をずっと思い描いていました。そんななか、町の移住現地セミナーに参加し、この町の自然豊かな環境、地域の温かさに心を奪われ、移住を決断しました。

最高の環境で子育てを

移住当時、長男が小学校一年生になったばかりということもあり、転



家の前で育てているトマトの成長を、家族みんなで楽しんでいる。

校してこちらの小学校にうまく馴染むことができるのか、埼玉からの環境の変化に対応できるかなどの不安や心配もありましたが、この地域は異学年との交流活動も多く、学年関係なくみんな仲良く活動しているため、すぐに友だちもできました。

また、家の周りも自然が溢れているので、子どもたちにとっては、すべてが遊び場となっています。日々自然に触れながらのびのびと生活できるので、心の成長にも良いと感じています。そして何より、地域のつながりが強く、近所の方も子どもたちのことをいつも気にかけてくれます。自分の子どものようにかわいがってくれるので、安心して子育てができ、家族でここに移住して良かったなと実感しています。

理想の「住み家」との出会い

移住現地セミナーに参加したとき、

空き家物件の紹介もあり、その時、以前からあこがれていた「古民家」に出会いました。家はもちろん、自然に囲まれた雰囲気にも心が惹かれ、この家で子どもたちを成長させたいと思い、私たちの住み家に決めました。

自然に囲まれた場所で、四季を五感で感じ、さまざまな体験をすることができる。お金があっても、都会では経験することができない、心を豊かにしてくれる環境や魅力が、ここにはたくさんある。まさに「いなか暮らし」の醍醐味だと思います。

長年都会に住んでいた私たちですが、ここでの暮らしは、さまざまな「初めて」に遭遇します。初めて見るホタル、満天の星空、巨大な虫たち、いろんな意味で驚きの日々を過ごしています。

これからも家族5人、大自然を肌で感じながら、「いなか暮らし」を満喫していきたいと思っています。



渡部 ^{よし かず} 義一さん (74歳)
^{いく こ} 征子さん (71歳)

Profile

平成19年に東京都練馬区から下小野に移住。釣りや家庭菜園など、自然の中でのゆったりとした生活を楽しんでいる。

自然とともに暮らす

南伊豆町は海、山、川が近くにあり、私たちの求めていた場所に最適でした。花が元々好きだった妻は、庭先に四季折々の花を育てたり、家庭菜園、自然の木材を利用した「リース」作りなどを、私も移住してから始めたサーフィンや、小型船の造船、妻と共通の趣味の釣りをしたり、スローライフを楽しんでいます。

都会のように建物が密集しておらず、車の通りも少ないので、日当たりや環境が良いのがここの魅力ですね。家で過ごしていると、野鳥の鳴き声や木々が風で揺れる音が聞こえることもあり、都市部では味わうことができない「季節感」に触れ、自然と一体でいられる気がします。

しかし、過疎地の基本的な悩みと

はありますが、やはり利便性や地域医療の面では、不安に思うところがあります。なので、健康には特に気をつかい、病院にかからないよう、適度な運動をしたり、積極的に外に出て活動するよう心がけています。

第2の人生のスタートとして選んだこの地で、2人でこれからも元気に過ごしていきたいです。

仁井田 ^{まこと} 実さん (47歳)
酒井 ^{のり か} 章馨さん (27歳)

Profile

今年6月に埼玉県から中木に移住。10年ほど前から中木を訪れるようになる。趣味は立ってサーフボードを漕ぐサップ。

地域の温かいきずな、心の「豊かさ」がここにはある



昔から海が好きで、伊豆の海をよく訪れていました。伊豆に何度も訪れる中で、中木のヒリゾ浜に魅了され、気がつけばここ2年は、毎月中木に通い、サップをしたり、のんびりとした時間を過ごして楽しんでいます。

毎月通う中で、知り合いも増え、中木で知り合った方々と楽しくゆっくり過ごす時間がとても心地よく感じ、皆さんが温かく迎えてくれるこ

とが何より嬉しく、移住することを決断しました。サラリーマンをしていた私にとって、これまでの安定した収入のあった生活を捨てて、中木で暮らしていくことは、やはり大きな決断でした。移住するにあたり、こちらの知り合いにも相談をし、ここでの生活についてのアドバイスなどをいただき、最終的に自分の意思で移住を決断しました。

都会で生活していたときのような

便利さはなく、特に買い物については、都会のようにすぐ近くにコンビニやスーパーがあるわけでもないですが、今はその不便さも楽しみながら生活しています。

一日も早く地域の一員として認めてもらえるよう、地域の活動には積極的に参加し、まだ、地域の大変な部分は見えていないところもあると思いますが、楽しみながら生活していきたいです。

移住希望者と 地域をつなぐ

移住者が地域にとけ込んでいくには、地元の受け入れ支援が必要です。
地域と移住希望者の橋渡しをしている関係者にお話を聞きました。



NPO 法人 伊豆未来塾
石川 憲一さん

NPO 伊豆未来塾は、農林水産振興を目的に平成14年に設置され、現在、移住定住促進や地域おこし事業などにも取り組んでいる。

安心して移住できるような土台をつくる

数年前から町の委託事業として始めた移住現地セミナーでは、毎回15～25人の移住希望者に参加していただき、地域の方々との交流や、移住者との意見交換会などを通じて地域のことを知ってもらい、毎回2～3組の参加者の移住に結びついています。移住現地セミナーの他にも、年に数回、移住相談会を都内中心に開催しています。

移住希望者と話をするときについて心がけていることは、町の魅力だけでなく、田舎ならではの問題などもきちんと伝えるということです。私たちは、移住希望者をただ呼び込む

ことを目標としていません。まずはこの町のすばらしさや課題を多くの方々に知ってもらい、何度も足を運んでもらう。そこから移住につながり、町が活性化していくことを最終目標として、活動に取り組んでいます。

今年度から、新たな移住促進事業の開始や、移住プロモーション映像の3作目の製作など、移住希望者の受け入れ体制をさらに強化します。

限られた資金とスタッフで活動をしているので、いろいろな課題はありますが、これからも移住の橋渡しとしての役割がしっかりできるような活動していきたいです。

地域に明るい声が響き渡ることを願う

南上小学校は、全校児童が48人の小規模校です。高齢化が進み、複式学級となっている学年もあるなかで、若い家族が移住してくださり、新しい児童が増えることは本当に嬉しいことです。南上小学校のような小さな学校では、1人でも児童が増えることで、学年が違う児童たちも明るくなり、活動仲間として楽しむことができるのです。また、毎朝小学生が歩いて通学する様子を見るだけで、地域も明るくなるんです。

昨年南上地域を中心に開催された移住現地セミナーで、小規模校ならではの地域連携活動の紹介などを行

いました。小規模校と聞くと、多様な意見に触れ合う機会があまりなく、将来社会に出たときになじむことができないのではとの不安の声も聞きますが、異学年との交流もしやすく、縦の繋がりもできます。また、豊かな自然体験、地域の方々との深い関わりなど、児童が地域と一緒に成長することができる素晴らしい環境が整っています。

南上小学校の良さを知って、ここで子どもを成長させたいと、多くの方に思っただければと考えています。



南上小学校
高橋 美智子校長

平成26年4月から南上小学校に赴任。学校と地域の連携活動を積極的に取り入れている。

住み家にしやすい まちの環境づくりをすすめる

都会に住んだことはありませんが、
都会の人の気持ちを考えています



企画課 地方創生室
黒田

とし あき
利章

南伊豆町で育ち、高校は下田、大学は県内で、静岡市より都会には住んだことがない黒田です。移住促進を図るにあたり、都会から移住した経験を持つ人が、移住促進に携わったほうが、効率的なのかもしれません。しかし、移住というのは、移り住む人と同じくらい迎え入れる人も重要ではと考えています。

移り住む人からみれば、移住先の候補はたくさんあり、自分の好きなところを選ぶことができます。迎え入れる人は、ある日突然、ご近所の方が増えることになるのです。その時に何ができるかと考えだすと、受け入れる人のことが気になってきま

せんか。

南伊豆町は、人口が毎年約100人ずつ減っています。地域が成り立つためには、人の力が必要です。人がいなければ、祭りも人足もできません。地元の祭りは自分の子どもにもやらせたいので、少しでも、継続ができるようにと考えています。移住してきた人が地域活動に参加すれば、継続ができるかもしれません。そのため、都会の人の気持ちを考えて、移住促進を考えています。皆さんも移住したい人が近くに来たらどうするか考えてみてください。

ここでは、町が取り組んでいる空き家バンク制度などをご紹介します。

空き家はありませんか、住まないともったいない

空き家バンクとは

住まなくなった家、管理できない建物をお持ちの人は、使ってくれる人を探してみませんか。

空き家バンクに登録すると、空き家を借りたい、買いたいと希望されている人に、不動産業者の協力を得て空き家を紹介します。

登録までの流れ

- 1 企画課へ連絡、登録申出
登録申出書を提出してください。
- 2 不動産業者との媒介契約
※手数料が発生します。
(基準は家賃1月分)
- 3 空き家バンク物件に登録
登録通知書を送付します。
- 4 移住希望者への情報発信
町から移住希望者へ情報発信します。

「お試し移住事業」を始めました

移住を検討している人に、移住体験をして地域の環境を理解できる機会を提供し、移住を促進する「お試し移住事業」を始めました。短期、中期、長期に区分して、滞在中の費用の負担軽減を行います。

短期では、民宿、旅館等の宿泊施設の素泊まりを基本として、年間10泊程度滞在する人を対象として施設利用できるように支援します。

中期では、町内の空き家バンク、賃貸物件の中から物件を選定、借上げを行い、その物件を利用できるようにすることで、1か月から1年程度の滞在を支援します。

長期では、町内の物件を賃借して最長5年間滞在する人を対象として家賃の一部を助成することで、長期滞在を支援します。

※この事業の広報宣伝については、東京都杉並区に協力していただいています。

町では、地域活動に参加することを前提に移住希望者を支援しています。
近年、移住希望者は増えていますが、流通している物件が足りていないのが現状です。

リフォーム活用事例



▲ リフォーム等補助金を活用して、屋根工事、フローリング張り替え工事を実施した事例



▲ 浴室改修した事例

リフォーム工事は町内の大工さんなど、登録されている業者が、家財処分は処理業の許可を受けている業者が実施することが条件となっています。

※家財処分の1軒分の費用は、一般的に15万円～30万円程度です。



▲ リフォーム等補助金を活用して、屋内の家財処分を実施した事例



空き家を再生

「床が傷んでいるから、屋根が雨漏りするから貸すことができない。」「荷物を片づけられないから貸すことができない。」ということはありませんか。

広く移住希望者に紹介できる空き家バンクに登録をした物件について、「リフォーム」や「家財処分」の費用を助成して、空き家の流通を促します。

リフォームは畳やふすま、床、屋根、キッチン、浴室、外壁などが対象となります。

家財処分は、一般廃棄物として処分することについて対象となります。

- | | |
|-----|--|
| 補助率 | ● リフォーム 1/2(上限100万円)
● 家財処分 4/5(上限20万円) |
|-----|--|

対象物件	空き家バンク登録物件
------	------------

対象者	所有者、入居者 ※入居者は所有者の3親等以内の親族であること
-----	-----------------------------------

家財処分活用事例

補助金の活用

補助金は、対象となるものとならないもの、予算の上限があるため、事前の申請が必要です。

※申請は、郵送でも可能ですが、添付書類等が複雑になる場合があるため、可能であれば事前に相談する方が安心です。

※必要経費がわかる業者の見積書や、内容を示すための事前・事後の写真等が必要です。

1 企画課へ相談、補助金申請

内容を決定したら事前に申請してください。

2 町が審査、決定

申請を審査し、補助金額を決定します。

3 リフォーム、家財処分の実施

リフォーム等を実施してください。

4 企画課へ実績報告

完了したら、報告書を提出してください。

5 町が審査、確定

報告を審査し、補助金額を確定します。

6 企画課へ請求

補助金の請求書を提出してください。

問合せ 企画課 地方創生室 ☎ 6 2 - 1 1 2 1

町の支援制度

住宅 支援

お試し移住体験事業

体験事業の利用許可を受けた人の滞在施設費用の一部を助成します。

対象者 町へ移住を検討している人（詳細については6ページに掲載）

問合せ 地方創生室

☎ 62-1121



住宅 支援

空き家バンクリフォーム補助金

空き家バンクに登録している物件の家財処分とリフォーム費用の一部を補助します。

対象者 登録物件の所有者、入居者または入居予定者など（詳細については7ページに掲載）

問合せ 地方創生室

☎ 62-1121



就業 支援

青年就農給付金

就農前の研修期間および経営が不安定な就農直後の所得確保に給付金を給付します。

対象者 45歳未満で、農業経営者となることについて強い意欲のある人

問合せ 地域整備課

☎ 62-6277



就業 支援

下賀茂商店街空き店舗対策事業

下賀茂商店街の空き店舗を活用した事業を開始する際に必要な改装費等の一部を補助します。

対象者 対策事業で空き店舗に指定している物件を利用し、小売業、飲食業、サービス業を開業する人

問合せ 南伊豆町商工会

☎ 62-0675



町の 施設

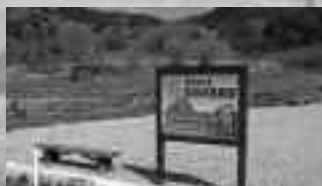
体験農園があります

豊かな自然に恵まれた地域資源を活用した、『町営吉祥体験農園』を開設しています。

対象者 自ら体験農園を利用し、景観を保全助長し、耕作できる人

問合せ 地域整備課

☎ 62-6277



文化 活動

文化活動団体があります

南伊豆町文化協会には、30団体加盟しており、さまざまな活動をしています。

活動団体 絵画、陶芸、舞踊、フラダンス、グリーンコーラス、津軽三味線など

問合せ 教育委員会

☎ 62-0604



町では、住宅支援、就業支援、子育て支援等の支援制度があります。

※概要のみの紹介となっています。制度の詳しい内容や必要書類などについては、事前に各担当課でご確認・ご相談ください。

子育て
支援

出産祝金支給事業

町の次代を担う子どもの誕生を祝うとともに、健やかな成長を願ってお祝い金を支給します。

対象者 出生前6か月以上町内に住所を有し、引き続き町内に居住する意思のある父または母

問合せ 健康福祉課

☎ 62-6233



子育て
支援

こども医療費助成事業

子どもの入院および通院にかかる医療費（自己負担分）の全額を助成します。

対象者 町内に住所を有する中学生（15歳以下）までの子ども

問合せ 健康福祉課

☎ 62-6233



子育て
支援

教育資金利子補給

就学のための教育費負担を軽減するため、教育資金を借り入れた利子分を補給します。

対象者 町内に住所を有する人またはその被扶養者

※交付決定日から5年以内

問合せ 教育委員会

☎ 62-0604



その他
支援

高齢者通院バス料金助成事業

下田メディカルセンターまでの通院に要する交通費の一部を助成します。

対象者 65歳以上の町民および通院付添者（1人）

問合せ 健康福祉課

☎ 62-6233



みらい 「次世代につなぐ」

今回の特集では、人口減少や少子高齢化など、多くの問題を抱えている南伊豆町で、その問題を打開するための町の移住定住施策の取り組みや、実際に移住してきた人からの貴重な声をご紹介します。「移住」についてのさまざまな声や取り組みをご紹介しますことで、町民の皆さんがこの町の豊かな自然や人と人とのつながりなど、多くの魅力を再発見する機会につながればと思います。

また、移住定住を推進するためには、移住してくる地域の理解や協力が必要不可欠です。皆さんで力を合わせ、明るく魅力あふれるまちづくりを目指し、素晴らしい南伊豆町を次世代につないでいきましょう。

自分の健康状態をチェックしましょう

特定健康診査のお知らせ

町では、生活習慣病予防に重点を置いた「特定健康診査」を下記日程で実施します。糖尿病、心疾患、脳血管疾患などの生活習慣病は重症化すると被保険者の経済的な負担の増加や国民健康保険の財政状況の悪化を招くだけでなく、個人のＱＯＬ※の低下も招きます。

対象となる人には7月下旬に受診券、質問票等を郵送しますので、受診率アップにご協力をお願いします。

※ＱＯＬ（クオリティ・オブ・ライフ）とは、人間らしく、満足して生活しているかを評価する概念です。

対象者

- 国民健康保険に加入している65歳から74歳までの人
- 後期高齢者医療制度に加入している人

負担金

500円

6月に受診できなかった40歳から64歳までの人も受診できます。

日程

月 日	対象地区	会 場	受付時間
8 月	19日(金) 手石	手石公会堂	13:00 ～ 14:30
	20日(土) 加納	役場「湯けむりホール」	
	21日(日) 下賀茂	役場「湯けむりホール」	
	22日(月) 一條、毛倉野	一條多目的センター	
	23日(火) 吉祥、立岩、上小野	吉祥コミュニティセンター	
	24日(水) 下小野、岩殿、青野	下小野高齢者センター	
9 月	5日(月) 伊浜、一町田	伊浜山村活性化支援センター	
	6日(火) 妻良、吉田	妻良公会堂	
	7日(水) 東子浦、西子浦、落居	五十鈴公民館	
	8日(木) 石井、上賀茂	石井集会所	
	9日(金) 石廊崎	石廊崎コミュニティセンター	
	10日(土) 入間、中木	中木生活改善センター	
	12日(月) 大瀬	大瀬公民館	
	13日(火) 下流	下流公民館	
	14日(水) 湊	湊コミュニティセンター	
	15日(木) 青市	青市公会堂	
	16日(金) 二條、差田	二條公民館	
	17日(土) 市之瀬、川合野、蛇石、天神原、平戸	市之瀬高齢者活動促進センター	

対象地区以外でも受診できますので、上記日程中の都合の良い日にご来場ください。





下記の地区は町のマイクロバス等で会場まで送迎しますので、利用を希望される人は健康福祉課国民健康保険係まで電話でお申し込みください。

健 診 日	送迎地区	乗降場所	配車時間
8 月	22日(月)	毛倉野	13 : 00 頃
	23日(火)	上小野	
	24日(水)	青野	
9 月	6 日(火)	吉田	
	10日(土)	入間	
	16日(金)	差田	
	17日(土)	蛇石、天神原、平戸	
		毛倉野奥バス停、ますや前 上小野農作物集荷所前 青野公会堂前、三島神社前 六屋駐車場前 入間農協前 勝田クリーニング前 天神原集会所前、蛇石バス停、平戸口バス停	

社会保険の被扶養者の人へ

社会保険（全国健康保険協会、健康保険組合、共済組合等）に加入している被扶養者の人も、左記日程で特定健康診査を受診できます。

受診方法

- ① 受診券を用意（加入している社会保険が発行したもの）
 - ② 賀茂医師会へ予約（☎ 27 - 1907）＊受診日の2週間～1 か月前までに
 - ③ 質問票、採尿容器が賀茂医師会から送られてきます。
 - ④ 受診券、質問票、採尿容器、保険証、自己負担金を持って予約した会場へ
- ※自己負担金は加入する医療保険により異なります。
※ご不明な点は加入している社会保険へお問い合わせください。

（加入者が多い主な社会保険の連絡先）

全国健康保険協会静岡支部 ☎ 0 5 4 - 2 7 5 - 6 6 0 5

静岡県市町村職員共済組合 ☎ 0 5 4 - 2 0 2 - 4 8 4 8（福祉課）

問合せ 健康福祉課 国民健康保険係 ☎ 6 2 - 6 2 3 3

大腸がん検診のご案内

特定健康診査と同時に大腸がん検診を実施します。今回は65歳以上の人へのご案内です。対象の人には7月下旬に問診票、採便容器を郵送しています。

対 象 者 65歳以上の人 ＊6月実施（65歳未満対象）時に未受診の人も受診できます。

負 担 金 400 円 ＊ただし国民健康保険加入者と70歳以上の人は無料
（国民健康保険で負担します。）

日 程 特定健康診査と同じ日程（10ページに掲載）

- 受診希望の人で、申し込みをしていないため問診票がない場合はご連絡ください。
- 大腸がん検診は社会保険の人も受診することができます。

問合せ 健康福祉課 健康増進係 ☎ 6 2 - 6 2 3 3

模擬選挙の結果をお知らせします

6月23日（木）から7月9日（土）までの間、役場1階多目的室前において、選挙権を有していない人にも投票を体験してもらうことで、将来有権者になることを実感し、選挙への興味・関心を持ってもらうことを目的に、模擬選挙を実施しました。



南伊豆町役場 模擬選挙公報		
【マニフェスト】 日本を元気にするために ＜お・も・て・な・しよ＞ ・国産品を優先して国産品を推進します。 ・自然環境を守るため、自然環境にやさしい国産品を推進します。 ・国産品を推進して国産品を推進します。	【マニフェスト】 国産品を推進して ＜国産品を推進＞ ・インターネットで国産品の国産品を推進して国産品を推進します。 ・国産品の国産品を推進して、国産品の国産品を推進します。 ・国産品の国産品を推進して、国産品の国産品を推進します。	【マニフェスト】 国産品を推進して ＜国産品を推進＞ ・国産品の国産品を推進して、国産品の国産品を推進します。 ・国産品の国産品を推進して、国産品の国産品を推進します。 ・国産品の国産品を推進して、国産品の国産品を推進します。

投票結果

- 投票総数 151 票
- 有効投票 151 票
- 無効投票 0 票
- 候補者の得票総数

南伊豆 さくら子（観光党） 69 票

南伊豆 えび男（水産党） 41 票

南伊豆 しし郎（鳥獣党） 41 票

上記の結果、南伊豆 さくら子 候補者が当選しました。
模擬選挙にご協力いただき、ありがとうございました。

問合せ 選挙管理委員会（総務課内） ☎ 6 2 - 6 2 1 1

エアコン、テレビ等を整備 青野区が宝くじの助成金を活用

（一財）自治総合センターでは、地域のコミュニティ活動を充実・強化し、地域の連帯感に基づく自治意識の向上を目的とした宝くじの社会貢献広報事業として、コミュニティ活動備品の整備等に対して助成を行っています。

今年度、青野区では、この助成事業を活用してエアコンやテレビ等を購入しました。今後、青野区公民館の利便性が向上し、より活発なコミュニティ活動が行われることが期待されます。



6/22,27 教育現場の現状把握



授業の様子を伺う教育委員たち

町の教育委員が、教育環境の整備を目的に、町内小中学校を訪問しました。大きな声で発表する子、真剣な眼差しで先生の話に聞き入る子など、さまざまな子どもたちの表情をみて、委員の皆さんも目を細めていました。

7/3 自分たちのまちづくり



みんなで作りあげた町を見る児童たち

絵本作家のスギヤマカナヨ氏による図書館ワークショップ「ぼくのまち、わたしのまちをつくろう！」が図書館で行われました。参加した児童たちは、思い思いの町を作り上げ、豊かな感性を育みました。

7/2 ひものづくりに挑戦



するめいかをさばく児童たち

ふるさと学級水産教室が、三坂漁港を中心に行われました。参加した親子67人は、漁協青年部からスルメイカのひものづくりに教わったり、ヒリゾ浜に移動して磯観察などを行い、海の生態を学びました。

7/4 学校図書100冊を寄贈



学校図書を寄贈してくださった村越さん（右）

下田市の村越新聞店の村越由美さんが、読者からの古紙回収で集めた資金により購入した学校図書100冊を町へ寄贈してくださいました。寄贈していただいた本は、町内5小中学校と図書館に配架し、活用します。

「なのはな号」試験運行開始

公共交通の空白地域での活用を目的として、日産自動車(株)が企画する「電気自動車活用事例創発事業」に採択され、平成30年度まで電気自動車の無償貸与を受けることになりました。

この電気自動車を活用し、路線バスのバス停から距離のある落居・吉田地区および青野地区と交通拠点(下賀茂地区)を結ぶ2路線の試験運行を7月1日から始めました。

この「なのはな号」は、平成29年3月31日まで利用料無料とし、その間、町では地域および利用者の声を聞きながら、地域の実情に合った公共交通を検討していきます。



各路線毎週1回1往復します

今月のおすすめ



「医者のたまご、
世界を転がる」
中島侑子著／ポプラ社
ネパールの無医村、インドの路地裏、パキスタンのテロリスト村…。幾多の出会いと冒険を経て著者が行き着いたのは、救急救命の現場だった。



「硝子の太陽 Noir」
菅田哲也著／中央公論新社
沖縄での活動家死亡事故を機に「反米軍基地」デモが全国で激化した二月、新宿署の東弘樹警部補は「左翼の親玉」を取り調べることに…。



「ママ、もっと自信をもって」
中川李枝子著／日経BP社
「ぐりとぐら」の誕生秘話。保育士として働いた17年間、子どもから教えてもらったことは子どもはみんな「お母さんが大好き」ということでした。



「夜の木の下で」
湯本香樹実著／新潮社
話したかったことと、話せなかったこと。はじめての秘密。ゆれ惑う仄かなエロス。つないだ手の先の安堵と信頼。生と死のあわい。



「リングが腐るまで」
笹子美奈子著／KADOKAWA
東日本大震災から5年、原発事故被災者の葛藤は続いている。賠償金をめぐる地域コミュニティの分断、長い仮設住宅暮らしで崩壊する家族関係…。



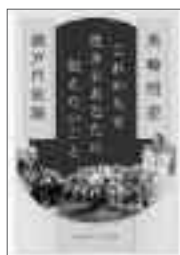
「番神の梅」
藤原緋沙子著／徳間書店
桑名藩から越後の陣屋へ。夫を支え、子供を産み、育て、貧しい暮らしを強いられた、下級武士の妻の紀久。紀久を支えたのは一本の梅の木だった。



「午後には陽のあたる場所」
菊池桃子著／扶桑社
コンプレックスだらけの元アイドルが、今では客員教授として教壇に立っている。苦悩や葛藤、出会いと別れ、そのすべての想いが明かされる。



「学校の近くの家」
青木淳悟著／新潮社
正門から徒歩1分。窓からは教室が見える。先生たちのキャラクター。男子と女子の攻防など。小学五年生の視点で立ち上がる、驚くべき世界像。



「これからを生きるあなたに伝えたいこと」
瀬戸内寂聴、美輪明宏著／マガジンハウス
先行き不安なこの時代、強く賢く生きるにはどのような心構えでいるべきか。また、家族や老いにはどう向き合えばよいのか。とおきの対話集。



「母さんがどんなに僕を嫌いでも」
歌川たいじ著／PHP研究所
美しく人望もある母には、もうひとつ別の顔があった。実母から壮絶な虐待を受け続けた僕が、自分の人生を幸せに歩き始めるまでの軌跡。

－新着図書案内－

許せないという病 片田 珠美
広島原爆写真集 反核・写真運動監修
マイナス金利 徳勝 礼子
貧困女子のリアル 沢木 文
老後親子破産 NHK スペシャル取材班
腸内フローラ健康法 藤田紘一郎監修
ビジネスのヒントは駅弁に詰まっている 堀内 重人
老けない体は柔らかい筋肉からつくられる 坂詰 真二
本物の英語力 鳥飼玖美子
スマホ時代の親たちへ 藤川 大祐
ポイズンドーター・ホーリーマザー 湊 かなえ
キッチン戦争 樋口 直哉
影の中の影 月村 了衛
おめかしの引力 川上未映子
おなががすいたハラペコだ。 椎名 誠

夏休み出前おはなし会のお知らせ！

図書館では、夏休みを利用して、読み聞かせボランティアや中学生ボランティアと一緒に「夏休み出前おはなし会」を行っています。8月は下記の地区で行いますので、皆さまお出かけください。また、会場では児童図書の貸出も行いますので、こちらもぜひご利用ください。

日時	場所
8月3日(水)	入間生活改善センター
8月10日(水)	下流公民館
8月17日(水)	大瀬公民館

時間はいずれの日も9:30～
(1時間程度)

健康レシピ 簡単ナムル



ここがポイント！



かつお節とごまを入れることで、風味が増します。

なすみかい

南豆味会（健康づくり食生活推進協議会）

問合せ 健康福祉課 ☎ 62 - 6233

▷ 材料／4人分 ◁ （1人分エネルギー 49kcal、塩分0.6g）

きゅうり……………小1本	A	しょうゆ……………大さじ1
にんじん……………小1本		砂糖……………小さじ1/2
もやし……………1/2袋		こしょう……………少量
ごま油……………小さじ1		すりごま……………小さじ2
		かつお節……………適量

▷ 作り方 ◁

- ①きゅうりは千切りにする。にんじんは皮を剥いて千切りにする。
- ②フライパンにごま油を引いて中火にかけ、きゅうり、にんじんをしんなりするまで炒めたら、もやしを加えてさっと炒める。
- ③Aを②に混ぜ、すりごま、かつお節を加えて和える。

毎月19日は『食育の日』
～「いただきます」から始まる食卓～



松原

みなみいず探索記



鍋木

地域との橋渡し

「移住定住促進」



移住定住促進事業の勉強のため、西伊豆町地域おこし協力隊の京極隊員主催の移住体験ツアーに参加してきました。同じ賀茂郡でも生活環境が違うところがありますが、スーパーなどを訪れ物価や品揃え等地域の生活を実際に体験してもらう事で、より具体的な内容もあり、勉強になりました。ツアーの反省会のため、京極隊員が南伊豆町を訪れた際には、町内を案内したり移住者の方の話を伺ったり、お互いの活動に繋がる意見交換などを行いました。

後日、西伊豆町のツアーに参加したご夫婦から、南伊豆町を案内して欲しいとの依頼があり、鍋木隊員と一緒に案内しました。西伊豆町で

の体験ツアーで勉強したことを活かしながら海に山に案内し、町の魅力を見てもらい、実際の生活環境などを伝える事で「理想だけでなく移住を真剣に考えるきっかけになった。またぜひ南伊豆町を訪れたい」と満足していただきました。私は町での生活が3年目になりますが、日々の楽しさや、日常生活の大変さなども少しずつですが感じています。移住希望者の方を定住へと繋げていくためにも、移住の先輩として町の魅力とあわせて実際の生活を伝えていくこと、そして移住希望者と地域を繋げていくことが、私たち協力隊の役割だと思うので、その事を大事にしながら今後も頑張りたいと思います。

隊員 松原

お知らせ

人権相談制度をご利用ください

7月1日、法務大臣から人権擁護委員として加藤生喜さんが委嘱されました。人権擁護委員は、差別やいじめ、児童虐待等の人権に関する相談窓口となる人です。お気軽にご相談ください。



※人権相談日は、「広報みなみいずお知らせ版」カレンダー（毎月15日発行）に掲載してあります。

問合せ 町民課 住民年金係

☎ 62-6222

県道波勝崎線の道路拡幅工事が始まります

波勝崎苑へつながる県道波勝崎線の道路拡幅工事を、9月から予定しています。この工事が完了すると、狭くて危険なカーブ箇所が広がり、安全な道路となります。工事へのご理解とご協力をお願いします。

問合せ 下田土木事務所 工事第1課

☎ 24-2114

平成28年度危険物取扱者試験日程

試験日 11月6日（日）

試験種類 甲種・乙種全類・丙種

申請期間

・電子申請 8月29日（月）～9月6日（火）

・書面申請 9月1日（木）～9月9日（金）

場所 下田中学校

問合せ 下田消防本部 予防課

☎ 22-1849

* 消防試験研究センターHP

<http://www.shoubo-shiken.or.jp>

ひとり親家庭のランドセル等購入費用助成

対象者 児童扶養手当を受給するひとり親家庭で、平成29年4月から小学校1年生になる児童を監護している人

内容 ランドセルおよび学校指定用品（体操着、上履きなど）の購入費用の一部を助成（上限3万円）

申請期間 平成29年3月31日まで

必要書類 印鑑、領収書の原本、通帳
※生活保護法に基づく一時扶助として入学準備金の支給が行われている場合または学校教育法に基づく就学援助等と重複する場合は助成対象外となります。

申込み・問合せ

健康福祉課 子育て支援係

☎ 62-6233

下田地区消防組合職員募集

採用予定人員 消防職員5人程度（平成29年4月1日採用）

※採用予定人員は、変更になる場合があります。

受験資格等

高等学校を卒業または平成29年3月卒業見込みの人で、平成2年4月2日以降に生まれた人

※日本国籍を有しない人および地方公務員法（昭和26年法律第261号）第16条に規定する欠格条項に該当する人は、受験できません。

試験日

・第一次試験 10月16日（日）

・第二次試験 11月6日（日）

受付期間

8月15日（月）～9月23日（金）

郵送の場合は、9月23日必着

問合せ・申込み

〒415-0026 下田市六丁目1番14号
下田消防本部 総務課

☎ 22-1829

※試験案内および受験申込書は下田消防本部のほか、南伊豆分署、河津分署、西伊豆消防署にも用意してあります。

シニアの元気アップ塾参加者募集

いつまでも元気でいるために必要な介護予防について学ぶ教室です。介護予防のポイントを生活に取り入れ、いきいきとした毎日を過ごすためにぜひご参加ください。

【日時・内容】

① 9月7日（水）10:00～11:30

介護予防についての話・トリム体操
※座って行う運動です。

② 10月13日（木）10:00～11:30

口の健康についての話・口腔体操

③ 11月9日（水）9:30～12:30

栄養バランスのとれた食事内容についての話、調理実習

場所 役場 湯けむりホール※3回目は役場 調理室

対象者

65歳以上の町民

原則として3回すべて出席できる人
医師に運動を止められていない人

参加費 1回300円

定員 15人

送迎 必要な方はご相談ください。

申込期限 8月26日（金）まで

申込み・問合せ

健康福祉課 地域包括支援センター

☎ 62-6233

夏休み親子県庁見学開催

日時 8月19日（金）、22日（月）

いずれの日程も13:15～15:45

場所 静岡県庁（静岡市葵区追手町9番6号）

内容 県庁の仕組みと仕事の説明、県議会本会議場等の見学

対象者 小学4年生以上の児童とその保護者

申込方法 電話による事前申込み

申込期間 各開催日7日前までの8:30～17:00

募集人数 各60人（先着順）

申込み・問合せ

静岡県 広聴広報課

☎ 054-221-2455

メディカル通信

『患者さま専用無料巡回バス』 のお知らせ

現在、当院では職員全体で「患者様が受診しやすい環境作り」をテーマに、さまざまな改善に取り組んでいます。その中のひとつに、受診患者さま専用の定期運行バスの巡回を開始しています。下田市と南伊豆町の各地域人口の割合を参考にして、多くの患者さまの負担を少しでも軽減できればと、5月23日より新たな巡回地域の試行運転を行っています。

現在では、青野地区・大賀茂地区・田牛地区を通るルート（10か所）と、下賀茂地区・湊地区・吉佐美地区を通るルート（12か所）



を月曜日と水曜日に1日2往復し、すべて無料となっています。

下田メディカルセンターへ受診される患者さままたはお付添いする方でしたらどなたでも乗車することができますので、お気軽にお問い合わせください。車椅子を使用している方も乗車可能です。（2名まで可能）

今後はバス利用人数などを調査し、運行地域の拡大も検討していく予定ですので、ぜひご利用ください。

〒下田メディカルセンター

☎ 25-2525

交 流 自 治 体
だ よ り

東京都杉並区



（株）森守 高円寺【座の市】へ初出店

杉並区の高円寺にある区立杉並芸術会館「座・高円寺」では、「劇場を街の広場に」をコンセプトに、毎月第3土曜日、おいしいものを買って、食べて、おしゃべりできる「座の市」を開催しています。区内外のお店が、野菜やフルーツ、パン、お菓子など、さまざまな商品を出店し、土曜日の高円寺の街を賑わせています。

また、このイベントを通じて、出展者同士の交流や新しい流通も生まれています。5月21日（土）に（株）森守さんが、南伊豆町から初出店し、イノシシやシカのソーセージ・串焼を販売しました。

まちとまちのつながりから、人と人がつながっていく。そのつながりは、劇場という街の広場で、さまざまなつながりへと波及していく。そんな新しい交流のカタチが始まっています。

※座の市への出店をご希望の方は、お気軽にお問い合わせください。

〒杉並区 区民生活部 文化・交流課

☎ 03-3312-2111



戸籍の窓

赤ちゃん誕生おめでとう

地区	赤ちゃんの名前	誕生日	父・母
湊	佐藤 大剛	6.10	正太・友里
下流	平山 花音	6.10	耕平・美詠子
下小野	西ヶ谷 径	6.13	一男・亜希子
一條	鈴木 逢月	6.17	智宏・陽美
伊浜	藤井 心咲	6.21	大地・英津巳
湊	大野 涼夏	6.24	和也・さゆり

結婚お幸せに

地区	お名前（旧姓）	婚姻日
湊	進士正紀・美香子（山本）	6.13

お悔やみ申し上げます

地区	氏 名	年齢	月 日
大瀬	渡邊 宗美	85	6.3
天神原	大淵寅五郎	90	6.14
石廊崎	鈴木 たき	99	6.22
湊	鈴木 はつ	97	6.28

平成28年6月1日から6月30日までに届出のあったもの（敬称略）

※このコーナーに掲載を望まない方は、戸籍届出の時に申し出ください。

人の動き

（7月1日現在）

世帯数 3,959世帯

人 口 8,748人（+3）

男 4,194人 女 4,554人

-----（5月中）-----

転 入 24 転 出 17

出 生 7 死 亡 11

※住民基本台帳法の改正（平成24年7月9日）により、外国人も含んでいます。

8月、町県民税、国民健康保険税、
国民年金保険料の納付月です。

納期限内に忘れずに納めましょう。

税金・料金の納付は便利な口座振替で。お申込みは、各金融機関窓口まで。



まちの人

農業のやりがいを
多くの生徒に伝えたい

山本 ^{てつや} 哲也 さん

袋井市出身。今年4月に下田高校南伊豆分校に赴任。
生徒たちに農業や大好きな虫の話をするためと熱く語って
しまうという、フレッシュな先生。

小さい頃から虫が大好きだった私にとって、この町はわくわくとたくさんの発見がある、すてきなところだと思いました。田んぼや畑で昆虫採取をしている子どもたちを見ると、昔の自分を見ているようです。

学校の先生になろうと思ったのは、高校時代のある恩師に出会ったのがきっかけです。私も農業高校出身なのですが、農業だけでなく、自然のことなら何でも知っている物知り先生がいました。その先生から刺激を受け、自分も幅広い知識をたく

さんの人に教えたいと思い、大学では農業学科を専攻し、農業の教員免許を取得しました。

南伊豆分校に赴任して4か月。この学校は生徒と教員との距離がとても近く、みんな明るく接してくれるため、毎日楽しい生活を送っています。何よりこの地域、学校の雰囲気大好きです。今後も生徒に農業の知識を深めてもらうとともに、1人でも多くの生徒が、将来農業関係の仕事に携わってもらえることができればと思います。

健康一口メモ



夏の食中毒を防ごう！

食中毒の3原則は「つけない」「増やさない」「やっつける」です。

菌を「つけない」

- ・食材にさわる前には手を洗う
- ・加熱前の食肉や魚介類は、包丁・まな板・はし等を介し、生で食べる野菜等と接触しない
- ・傷のある手で食材をさわらない

菌を「増やさない」

- ・食品は冷蔵庫や保冷バッグを使用し、冷温保存する
- ・調理した食品はなるべく早く食べる

菌などを「やっつける」

- ・食肉や魚介類は中心部まで十分加熱する
- ・食器洗いスポンジや布巾、調理器具等は熱湯や殺菌剤により消毒する

問合せ 健康福祉課 ☎ 62-6233

スマイルキッズ



一條 高橋 ^{あお} 蒼 葉 くん (1歳6か月)

「お兄ちゃんとお姉ちゃんと
遊ぶの大好き！」

広報みなみいず 8月号

発行日／平成28年8月1日

発行／南伊豆町 編集／企画課 印刷／(有)サン印刷

〒415-0392 静岡県賀茂郡南伊豆町下賀茂315-1

TEL 0558-62-6288 FAX 0558-62-1119

ホームページ

<http://www.town.minamiizu.shizuoka.jp/>

編集後記

今回の特集では「移住」について、さまざまな声を皆さんにお届けしました。この特集が、地域の未来を考える機会になるとともに、皆さんが感じている町の魅力を、多くの人にアピールしてもらえたらと思います。



広報みなみいずは、再生紙を利用しています。